



World Winter Cities Association for Mayors 世界冬の都市市長会 広報誌

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168
e-mail/wwcam@city.sapporo.jp URL/https://wwcam.org/

2022年
3月発行

2021年ロヴァニエミ市長会議をオンライン開催

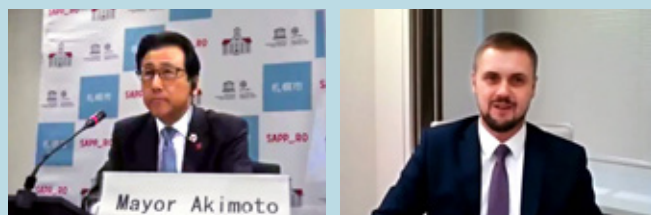
2021年11月5日、同月15日から16日までの3日間、フィンランド・ロヴァニエミ市が開催都市となり、第19回世界冬の都市市長会議を開催しました。世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、市長会議初のオンライン開催となりました。

11月5日の政策研究会や同月15日の分科会では、参加都市によるプレゼンテーションと質疑・意見交換を行いました。

11月16日には、2015年から活動をしてきた北極圏デザイン小委員会の最終報告がされたほか、会議全体を総括するロヴァニエミ宣言と今後の世界冬の都市市長会の活動に関する決議が会員都市の賛同を得て採択され、会議は終了しました。



開会挨拶をするロヴァニエミ市長とサンタクロース



会議で発言する札幌市長(左)とノリリスク副市長(右)

2021年ロヴァニエミ市長会議の開催概要

■会期:2021年11月5日(金)、同月15日(月)~16日(火)

■開催都市:フィンランド・ロヴァニエミ市

■参加者:7か国21都市(会員都市、オブザーバー都市)

■メインテーマ:寒冷気候の冬の都市における高齢化社会

■主な行事:

【政策研究会】各都市の実務者や大学関係者などが参加し、トピックに関するプレゼンテーションと質疑・意見交換を行うもの。
〈トピック〉冬の都市における観光開発

【分科会】各都市の代表者または代表者代理が参加し、サブテーマに関するプレゼンテーションと質疑・意見交換を行うもの。
〈サブテーマ〉①社会的孤立への挑戦と解決策

②高齢者の活躍

③すべての人のためのインフラと建築

【北極圏デザイン小委員会の最終報告】

【ロヴァニエミ宣言・決議事項の採択】

■参加都市(会員都市)7か国・14都市

国名	都市名
カナダ	エドモントン市
中国	長春(チョウシュン)市、大慶(ダイケイ)市、ハルビン市、ジャムス市、吉林(キツリン)市、チチハル市、瀋陽(シンヨウ)市
フィンランド	ロヴァニエミ市
日本	札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	華川(ファチョン)郡
ロシア	ノリリスク市、ノボシビルスク市

■オブザーバー参加都市3か国・7都市

国名	都市名
日本	函館市、鹿児島市、北広島市、北九州市、松本市
韓国	春川(チュンチョン)市
ロシア	ハバロフスク市

ロヴァニエミ宣言

世界冬の都市市長会は、北方地域に位置する20以上の都市が参加する活発なネットワークであり、その活動は40年の歴史をもつ。

ここ数十年で、我々会員都市は、世界の大きな変化を良い意味でも悪い意味でも経験した。グローバル化により、人々の距離は縮まり、物流のつながりが強化され、モノや人の流れが世界のあらゆる場所に集まるようになった。一方で、地球温暖化は気候危機へと加速し、私たちの未来を守るためには、新たな発想と具体的な行動が求められている。このような課題に直面しながらも、我々冬の都市は、確固とした気持ちで未来を見据えている。

この2年間、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威に支配され、人的交流に大きな影響を与えた。また、私たちはオンラインを活用してコミュニケーションがとれることを学んだ。しかし、対面式の交流のすべてがオンラインでのコミュニケーションに代わることはない。今回初めて、市長会議及び総会をオンライン形式で開催したが、これが最後のオンライン開催となり、近い将来に対面で集えるようになることを強く願う。

第19回世界冬の都市市長会議のテーマは、「寒冷気候の冬の都市における高齢化社会」であり、パンデミック前にこのテーマが決定していた。しかし、パンデミック禍では人々、特に高齢者の孤独感や孤立感がより顕著となった。どの都市もインフラ、建築、都市計画という課題に直面する。さらに冬の都市においては、気候的な要因や冬の状況により、これらの課題は特殊性を持ち合わせる。

このような課題を踏まえ、我々冬の都市は、協力関係を強固にし、気候変動を抑制するための解決策を探り、都市計画を改善し、高齢化社会のニーズをより考慮していくことをここに宣言する。私たちは、冬の都市市長会のパートナーシップ精神に基づき、互いに敬意を払い、互いの成功への道を模索しながら、共に力を合わせていく。

政策研究会

トピック「冬の都市における観光開発」について、6都市のプレゼンテーションと質疑・意見交換が行われました。

【プレゼンテーション】

①ロシア・ノリリスク市

ロシア・タイミル半島の観光業発展のために作られた北極圏観光クラスターや自然のロケーションを生かした冬の観光、多言語の観光デジタルツールなどについて

②カナダ・エドモントン市(ビデオプレゼンテーション)

世界有数の冬の都市を目指すための戦略や冬の観光体験の創出、観光客誘致の広報キャンペーンについて

③フィンランド・ロヴァニエミ市

新型コロナウイルス感染症の観光への影響と今後の観光について

④日本・札幌市

北海道大学と北部地域の大学との観光に関する共同教育プロジェクトについて

⑤中国・瀋陽市

瀋陽市で親しまれている雪や氷のスポーツ、国際冰雪祭、世界文化遺産などの観光資源について

⑥モンゴル・ウランバートル市

伝統文化などを活用した冬の観光の発展・課題・改善策について

【主な質疑・意見交換】

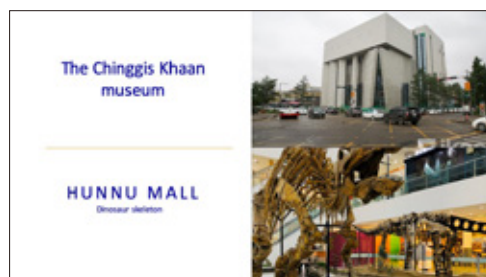
温暖化による降雪時期や降雪量の変化、夏と冬の観光客数のギャップ解消の取り組み、コロナ禍での公的機関などからの観光業への支援の仕組みや集客イベントの開催状況などについて質疑・意見交換が行われました。



ファシリテーターを務めるノリリスク市



エドモントン市のプレゼンテーション資料



ウランバートル市のプレゼンテーション資料

分科会

(1) 分科会1

サブテーマ「すべての人のためのインフラと建築」について、
4都市のプレゼンテーションと質疑・意見交換が行われました。

【プレゼンテーション】

①フィンランド・ロヴァニエミ市

循環型経済によるすべての人のためのインフラと建築の実現や季節ごとの課題対策などについて

②モンゴル・ウランバートル市

人口増加による環境汚染や交通渋滞などの課題と都心部への人口集中を防ぐための都市システムの導入などについて

③韓国・華川郡

地球温暖化の気候下でも冬祭りの開催を可能にするインフラ構築について

④ロシア・ノリリスク市

社会的・経済的発展を促す大規模投資とノリリスク市の都市改修計画について

【主な質疑・意見交換】

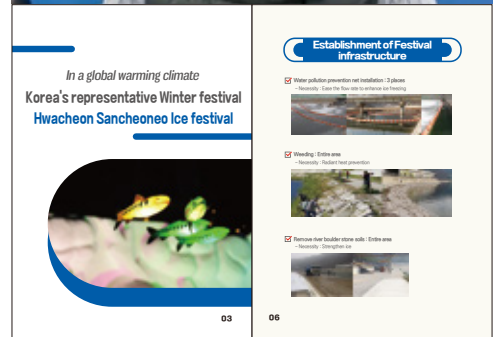
インフラと建築に関する各都市の優先課題、気候変動による人の移住の可能性、各都市で計画を策定するときの市民の声を聞く方法などについて
質疑・意見交換が行われました。



ファシリテーターを務めるロヴァニエミ市



ウランバートル市のプレゼンテーション



華川郡のプレゼンテーションと資料

(2) 分科会2

サブテーマ「社会的孤立への挑戦と解決策」「高齢者の活躍」について、
3都市のプレゼンテーションと質疑・意見交換が行われました。

【プレゼンテーション】

①フィンランド・ロヴァニエミ市

高齢者の代弁者であるロヴァニエミ市高齢者協議会の役割と活動内容について

②日本・札幌市

高齢化の状況と日本の社会保障制度、札幌市の高齢者活躍のための高齢者支援策について

③中国・瀋陽市

高齢者が社会で活躍できる政策などの体制づくり、高齢者の社会参加を促す情報発信の拡大と広報活動について

【主な質疑・意見交換】

各都市における高齢者へのデジタルサービスの提供状況や高齢者のデジタルサービスの利用状況、施策の達成状況に関する調査の方法、高齢化によって将来的に大きな課題になることが予想される孤独や健康の問題などについて質疑・意見交換が行われました。



瀋陽市のプレゼンテーションと資料

北極圏デザイン小委員会の最終報告

北極圏デザイン小委員会は、課題解決の手法としてデザインを活用し、会員都市の成功事例やノウハウを学び合うため、2015年2月に設立され、活動をしてきました。北極圏デザイン小委員会事務局であるロヴァニエミ市から、これまでの活動について最終報告が行われました。また、この報告では、次のことが強調されました。

- ▶世界冬の都市市長会の会員都市は、そのネットワークを活用した様々な連携が可能であり、他都市との連携は互いに大きな利点となる。
- ▶世界のオンライン化は進み、直接接続できる時代になった。
可能な限り、頻繁に接続し合うことで、お互いに前進できる。
- ▶人材や予算に限りはあるが、その中でも目標は高く掲げて進むべきである。



今後の市長会議の予定

次回の第20回世界冬の都市市長会議は、2023年にロシア・ノリリスク市で開催する予定です。具体的な開催時期や内容については、2022年に行われる実務者会議において決定する予定です。

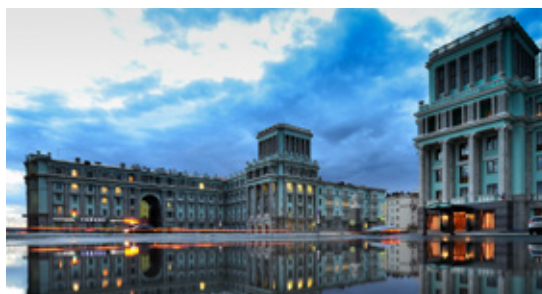
2023年市長会議開催都市 ロシア・ノリリスク市の紹介

世界最北の町のひとつであるノリリスク市には、約18万人が暮らしています。北極圏内の北緯69度に位置するため、一日を通して太陽が沈まない白夜(5月20日~7月24日)と太陽が昇らない極夜(11月30日~1月13日)があり、オーロラが見えることもあります。

ノリリスク市は、気象状況が過酷な(最低気温は-56℃)、世界で最も寒い都市のひとつで、1年のうち280日は霜が降り、130日以上は吹雪で、冬の時期は降雪量が2百万トンを超えます。さらに、世界で最も風が強い五大都市にも名を連ね、その対策としてコンパクトなループ様式の都市計画を採用しています。また、市内のほぼ全ての建物に独自の杭基礎技術が用いられており、この技術を用いることで永久凍土の上に建物を建設する費用と労力が抑えられています。

68年前に建設され、今では、極北での暮らしに必要な高度なインフラを備えた近代的な都市になったノリリスク市には、幼稚園が41施設、学校が36校、そして3千人以上の学生を有する高等教育機関であるノリリスク工業大学があります。ロシア最大規模の産業拠点であるノリリスク・ニッケル社では、こうした教育機関で学んだスペシャリストが求められています。

ノリリスク市は、手付かずの自然が残るプトラナ台地への玄関口でもあります。ユネスコ世界自然遺産に登録されているプトラナ台地の面積は25万平方キロメートル、ロシアで最も滝が密集している場所です。飛行機でしか訪れることができないため(夏期はエニセイ川からもアクセス可)、この地には、世界中で生息地が失われつつある固有種が数多く存在します。



2019年ノリリスク実務者会議実施報告

ロヴェニエ市長会議の開催計画案やテーマの選定などに関して、実務者レベルで協議を行う実務者会議を開催しました。



開催概要

- 会期:2019年11月14日(木)~17日(日)
- 開催都市:ロシア・ノリリスク市
- 会場:ノリリスク文化会館(パレスオブカルチャー)
- 参加者:7か国・17都市
- 会議内容:
 - ▶瀋陽市から2018年瀋陽市長会議開催結果を報告しました。
 - ▶事務局から、第20回市長会議の開催立候補都市の募集、入退会の報告、役員の改選に伴う立候補を説明しました。
 - ▶ロヴェニエ市長会議に関する開催日程、テーマ、分科会・政策研究会の設置などを協議しました。
 - ▶北極圏デザイン小委員会について、これまでの活動報告と今後の情報共有・意見交換の方法を協議しました。

■参加都市(会員都市)7か国・13都市

国名	都市名
カナダ	エドモントン市
中国	長春(チョウシュン)市、鶏西(ジーシー)市、瀋陽(シンヨウ)市
フィンランド	ロヴェニエ市
日本	札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	華川(ファチュン)郡、麟蹄(インジェ)郡、太白(テベク)市
ロシア	マガダン、ノボシビルスク、ノリリスク

■オブザーバー参加都市1か国・4都市

国名	都市名
ロシア	ドゥディンカ、モンチェゴルスク、ムルマンスク、ヤクーツク

関連イベント

(1) 学術フォーラム

ノリリスク国立産業大学で学術フォーラムを開催しました。大学や企業の関係者が、冬のエネルギー効率向上のためのインフラ整備や物流における問題、寒冷地が抱える開発への課題、少数民族の生活様式や伝統文化の保護などについての発表と意見交換を行いました。

(2) トークショーイベント

ノリリスク市民向けにトークショーイベントを開催しました。イベントには、ノリリスク市のほか、会員都市のマガダン市、エドモントン市、札幌市の実務者会議参加関係者が登壇し、各都市の魅力や先進的な施策、冬の都市ならではの課題について、プレゼンテーションや対談を行いました。



環境保全に関する取り組み

2016年札幌市長会議において、各会員都市は「エネルギーの転換と削減に関する取り組み」と「大気汚染などに関する環境保全の取り組み」について最大限努力することを決議しました。

2021年11月、この決議に基づく各都市の環境保全に関する取り組みをまとめましたので、その概要を以下にご紹介します。

なお、2021年ロヴァニエミ市長会議では、「エネルギーの転換と削減に関する取り組み」と「大気汚染などに関する環境保全の取り組み」について、引き続き努力していくことが決議されています。



都 市 名	内 容
チチハル市	新エネルギー産業を中心とした環境に配慮した開発の推進、さまざまな施策による大気汚染の管理と炭素排出量の削減、市の下水処理能力の強化などの水環境の改善、産業廃棄物と有害廃棄物の管理強化、環境に配慮した農業の推進、生態系の保護強化に取り組んでいる。
瀋陽市	2020年末までに、瀋陽市エネルギー消費量に占める石炭の割合を69.2%に削減、一次エネルギー消費量に占める非化石燃料の割合を8.6%に増加、1㎡当たりのPM2.5の濃度を42マイクログラムに下げた。
ロヴァニエミ市	ロヴァニエミ市から出る廃棄物の大部分を市営企業が管理。ロヴァニエミ市民が排出する廃棄物のうち、57%がエネルギー源、38%がリサイクルされる材料（再生紙など）に利用される。残りの4%が埋立地に、1%がその他の場所に送られる。
札幌市	2019年度に市内に建てられた新築戸建て住宅のうち高気密・高断熱住宅の割合は47.0%、2019年度における次世代自動車保有台数は15.5万台、産業・業務分野の電力需要量は58.0億kWh、再生可能エネルギーによる発電量は2.1億kWhとなった。
華川郡	2017年に143件、2018年に417件、2019年に25件、2020年に80件の太陽光発電を認可した。2024年までに、再生可能エネルギーを利用した住宅・ビルの割合を20%以上に増やす。
太白市	太白市は、171MWの風力発電所を管轄し、国内最高の風力資源を商業利用している。また、民間セクターと連携し、106MWの太白・加島新風力発電プロジェクトを推進。市の風力資源を活用した開発から得られる利益を地元還元できるよう、発電事業者との合意形成も進めている。
ノボシビルスク市	再生可能エネルギー転換のため、廃棄処分場を修復してバイオガス発電施設を建設する。エネルギー消費量削減のための「ノボシビルスク市における省エネルギーとエネルギー効率の改善」施策を実施している。環境保全のため、「ノボシビルスク市の住宅と公共サービス」施策で使用済み水銀廃棄物の回収等を行っている。
ノリリスク市	市の省エネ計画により、エネルギーと水の消費量を削減。二酸化硫黄の利用に関する大規模プロジェクトが実施され、汚染物質の排出が大幅に削減された。ノリリスク市では、市の緑化コンセプトを策定し、2022年の作業完了を目指している。2022～2024年に無認可の埋立地の解消を目指し、2023年には車両リサイクル施設の建設に着手し、放置車両の解消を目指す。雪捨て場の建設を2024年から、廃水処理施設は2022年から改築を開始する予定。さらに、欧州排ガス基準「ユーロ 5」に対応するディーゼル燃料のバスや天然ガスで走るバス、電気バスの購入も検討している。

世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経験、取り組みを学び合うためのネットワークです。1981年に札幌市が提唱し、翌年に1回目の市長会議が開催され、2023年開催予定のノリリスク市長会議で20回目の開催になります。

冬の都市の市長が一堂に会し、快適な冬のまちづくりに有益な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協力しなければならない課題にも、国際社会の一員として取り組んでいます。積雪寒冷という同じ環境にある海外都市との交流が、それぞれの都市にとって有形・無形の財産を築くことにつながっています。

冬の都市とは 積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市

積雪の基準: 1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm(8インチ)以上となること。

寒冷の基準: 1年間のうちで最も寒い月の平均気温がおおむね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

主な活動

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業として2年に1回開催されます。会議では、市長同士がまちづくりに関する取り組み事例を紹介し、情報や技術を交換し合うとともに、快適な冬のまちづくりに向けて議論をします。会議の開催市は、立候補した会員都市の中から総会の議決により決定されます。市長会議の開催市は、併催事業として、次の事業を開催することができます。

■冬の見本市

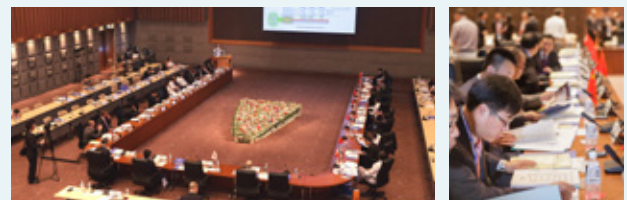
会員都市の企業等がブースを出展し、冬や雪に関連する機材や製品を展示し、様々な技術を紹介するとともに都市PRを行うなど、経済交流の場になっています。

■冬の都市フォーラム

さまざまな分野の専門家等が冬のライフスタイルやまちづくりなどの発表を行い、一般参加者とともに意見交換を行います。



第18回世界冬の都市市長会議(2018年9月中国・瀋陽)



第17回世界冬の都市市長会議(2016年7月日本・札幌)

実務者会議

次期市長会議の開催計画案や市長会議で議論するテーマの選定、市長会の運営などに関して実務者レベルで協議を行います。会議は2年に1回開催されています。



2018年実務者会議

小委員会

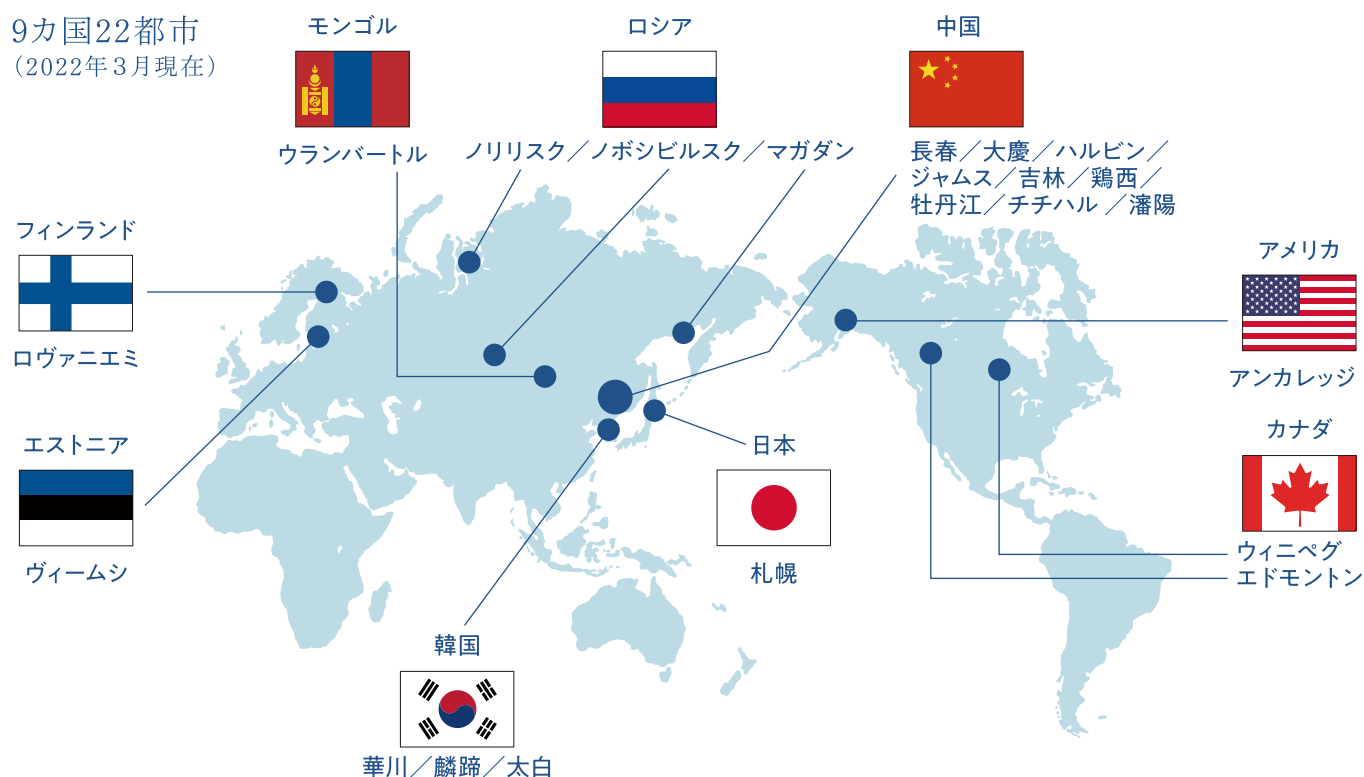
行政実務者及び技術者が、専門的な技術・情報の交換、調査・研究を行うための機関として小委員会を設置することができます。これまでに、「環境保全小委員会」や「北極圏デザイン小委員会」などが設置され、それぞれの調査・研究結果について最終報告を行っています。



北極圏デザイン小委員会の報告

会員都市

9カ国22都市 (2022年3月現在)



世界冬の都市市長会は、国連経済社会理事会登録NGO（ロスター）、国連広報局登録NGOです。

会員になるには

- 入会手続き**: 会員になるには、入会を希望する都市の市長が会長に入会を申請し、役員会に諮られ、入会が決定されます。
- 会費**: 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。
- 会員になると**: 市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用してさまざまな分野で個別に交流をすることができます。
- 申込先**: 世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。

(<https://wwcam.org/>)

世界冬の都市市長会は、快適な冬のまちづくりについて、ともに考える会員都市を募集しています。

入会の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。